

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成20年1月25日

【評価実施概要】

事業所番号	272400656
法人名	特定非営利活動法人聖美会
事業所名	グループホームさくら荘
所在地	北津軽郡鶴田町大字山道字小泉301 (電話) 0173-22-5680
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年10月2日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	18人, 非常勤 0人, 常勤換算 8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造トタン葺き	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鶴田町立病院、大林歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

窓から見える岩木山や農作業風景などから、季節感を十分に味わうことのできる環境に立地しているホームである。理事長兼管理者は、認知症であった実母の介護経験と、地元役場OBであるというメリットを最大限に活かし、利用者の視点に立つとともに、地域との関わりを大切にしたい、アットホームなホーム作りに努めている。

「1. 人生の師として尊まれ、自分らしさや誇りを大切に生きる。」「1. 地域とのふれあいの中で、生きがいのある毎日を送る。」という理念がホーム内に大きく掲げられている。職員一人ひとりが利用者を「人生の師」として尊敬し、謙虚な気持ちで接するとともに、協同して暮らす関係を築く等、理事長始め全職員が理念の実践に向けて日々取り組んでいる。

理事長の妻は看護師兼介護支援専門員であり、生活面だけでなく、医療面においても利用者が安心して生活できるよう支援している。また、職員へのサポートも行っており、そのことが利用者に対するサービス向上へと確実に結びついている。

【特に改善が求められる点】

虐待や身体拘束のないケアを実践しているが、虐待を発見した場合の取り決めや、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に理由等を記録する様式を整備することに期待したい。

災害時にも使用できるよう、ホーム向かいの倉庫に食料品は用意しているが、簡易トイレ等は用意されていないので、今後の取り組みに期待したい。

開設当初に栄養士に立ててもらった献立を参考に、職員が栄養バランス等に配慮した献立を作成しているが、保健所との連携を図る等、定期的に専門的なアドバイスをもらえる体制を整備してはどうか。

【重点項目への取組状況】

【各領域の取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を受けて、職員会議等で改善計画シートを基に話し合いを行い、改善に向けた取組を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義等については職員会議などで確認しており、自己評価実施時には全職員で取組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は4ヶ月に1回開催しており、町内会長や民生委員、家族等が参加している。会議では積極的に情報提供を行い、メンバーから意見を出してもらっている。会議で出された意見等は全職員に周知するとともに、取組むが必要な事項については検討し、今後の運営に反映させている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月のホーム便りや面会時を通して利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等について家族に伝えており、家族が意見や苦情等を話しやすいよう配慮している。また、ホーム内外の苦情受付窓口を明示したり、玄関に意見箱を設置する等の取組も行われている。家族から意見等が出された時は、細かい事項でも申し送りや職員会議で検討し、今後のケアに反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>理事長は役場職員のOBであり、また、地域の老人クラブ会長を担っていることもあり、地域に溶け込もうと積極的である。婦人会や老人クラブに向けて認知症講習会を実施するほか、ピアノ講師によるミニ演奏会の開催、看護学生やボランティアの受け入れ等も行っており、利用者のプライバシーに配慮した上で、ホームの機能を地域に開放している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>理事長は役場職員のOBであり、また、地域の老人クラブ会長を担っていることもあり、地域に溶け込もうと積極的である。婦人会や老人クラブに向けて認知症講習会を実施するほか、ピアノ講師によるミニ演奏会の開催、看護学生やボランティアの受け入れ等も行っており、利用者のプライバシーに配慮した上で、ホームの機能を地域に開放している。</p>

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理事長や全職員は地域密着型サービスの意義や役割を認識しており、職員間のコミュニケーションを十分に図りながら、利用者や家族、地域住民の声を大切にされた運営が行われている。</p> <p>研修主催団体の年間計画を参考に、ホームの研修計画を作成しており、職員は内部研修や個々の力量等に応じた外部研修を受講している。外部研修受講後は報告書を基に会議等で全職員に周知している。また、地区のグループホーム協会に加入しており、研修への参加等を通して同業者との情報交換を行って、職員及びホームの資質向上に努めている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心してサービスを開始できるよう、利用前にホームを見学してもらうほか、利用者や家族と十分に話し合いを行い、ホームの雰囲気慣れてもらうよう配慮している。</p> <p>日々の関わりを通して利用者の気持ちを理解するよう努めるとともに、調理等の利用者が得意なことは教えてもらいながら一緒に行う等、利用者と職員が支えあいながら暮らしている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>職員は小さな事でも日々の気づきをメモ用紙に細かく記録しており、その記録や利用者及び家族の意向等を基に会議で話し合い、利用者一人ひとりのできる力を最大限に発揮できるような、その人らしい介護計画を作成している。</p> <p>かかりつけ医での受診を支援しており、受診結果は定期的に家族に報告している。また、主治医にはいつでも相談することができる。重度化や終末期のケアに対応しており、取り決めに基づいて家族や医療機関等との話し合いを行い、方針の共有を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者のプライバシーや羞恥心、自尊心に配慮するとともに、「その人らしさ」を追求するよう努めており、個々のペースや状態に合わせたケアを提供している。</p> <p>日中が玄関を施錠しておらず、外出傾向を察知できるよう見守りを行っている。また、無断外出時には警察署や町内会長等の協力を得ることができる。</p> <p>感染症対応マニュアルを作成しており、学習会等で全職員が理解を深めている。また、感染症に関する情報はホーム便り等を通じて家族へも提供している。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの意義や役割を理解しており、常に心がけて日々のケアを提供している。地域密着型サービスが始まってから理念を見直しており、これまでの理念の一部を「地域とのふれあいの中で、生きがいのある毎日を送る。」という文言に変更している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールに掲示するほか、朝の申し送りや職員会議、ケア会議等では常に理念を確認しており、理念に基づいた利用者本位のケアを日々心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	理事長が地域の老人クラブ会長を務めていることもあり、老人クラブを始め、地域にホームを理解してもらう働きかけをしている。また、婦人会や老人クラブ会員に向けて認知症講習会を実施したり、役場等にホーム便りを送付するなどの取り組みにより、利用者の友達が遊びに来る等の関係が築かれている。ピアノ講師によるミニ演奏会を開催したり、看護学生の実習やボランティアを受け入れる等、利用者のプライバシーに配慮した上で、ホームの機能を地域に開放している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議等で評価の意義などを周知しており、自己評価実施時には全職員で取り組んでいる。また、外部評価の結果を受けて、改善計画シートを基に職員会議で改善に向けた話し合いを行っており、より良いケアサービスにつなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、町内会長や民生委員、家族等が参加している。会議では自己評価や外部評価に対する取り組み状況を報告するとともに、情報交換等を行っている。会議で出された意見等は職員会議で周知しており、取り組みが必要な事項については検討し、今後の運営に反映させている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場に毎月ホーム便りを持参するほか、消防署や警察署にも配布し、ホームの様子を伝えている。また、自己評価や外部評価の結果も報告しており、アドバイス等を受けている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する外部研修に参加している。また、会議で研修資料を配布するとともに説明し、全職員への周知を図っており、職員は概要を理解している。利用者がいつでも権利擁護事業を利用できるよう、社協に出向いて相談等を行っているため、事業利用開始に向けて支援を行う体制が整えられている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や職員会議等で虐待について理解を深めており、職員全員が「虐待は絶対あってはならない」と意識して日々のケアを提供している。管理者も虐待を未然に防ぐよう職員のケアを観察する等の取り組みは行っているが、虐待を発見した場合の対応等について取り決めに作成するまでには至っていない。	○	虐待のないケアに努めているが、虐待を発見した場合の報告の流れ等について取り決めを作成し、それを全職員に周知していくことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者や家族の意向を十分に聞きながら、重要事項説明書を用いて時間をかけて説明している。また、契約改訂時や退居時にも説明を行って同意を得ており、退居時には必要に応じて情報提供を行う等の支援も行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りに個別のコメントを添えており、暮らしぶりを報告している。また、健康状態や職員の異動等についても速やかに家族に伝えている。日々の買い物等は立替払いとなっているため、領収書を添えて月1回の報告・請求を行っている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族が意見等を話しやすい雰囲気作りに努めるほか、玄関に意見箱が設置し、要望等を出してもらえよう配慮している。また、ホーム内外の苦情受付窓口も重要事項説明書に明示している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年1回、ユニット間での異動があるが、その際には利用者への説明を十分に行うとともに、書類等で職員間の引継ぎを行い、利用者への影響が少ないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修主催団体が作成した研修計画を参考に、ホームの年間研修計画を作成しており、新人の基礎研修等の内部研修を実施したり、個々の力量等に応じた外部研修に職員を派遣している。外部研修受講後は報告書を基に職員会議で報告し、全職員への周知を図っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協会に加入しており、研修への参加等を通して同業者間での情報交換を行い、ホームの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを開始できるよう、利用前にホームを見学してもらい、利用者や家族との十分な話し合いの場を持っている。また、ホームの雰囲気慣れてもらえるよう、利用前からコミュニケーションを十分にとるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりを通して利用者の気持ちを理解するよう努めている。また、調理等の得意なことは利用者にも教えてもらいながら一緒に行う等、利用者と職員が支え合いながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との日々の関わりから「気づき」を得られるよう意識して接しており、一人ひとりの希望や思いを把握している。また、「暮らしの情報用紙」には全職員の気づきを記録しており、全職員が利用者個々の視点に立ったケアを提供できるよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりや面会時等を通して利用者や家族の要望等を把握している。また、月1回のケア会議を開催する前には職員個々の意見を用紙に記入することとなり、介護計画作成時に反映させている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に3ヶ月に1回の見直しを行っている。また、利用者の状態観察や面会時の家族からの意見聴取は随時行っており、変化がある時にはその都度見直しを行っている。見直しを行う時には再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理事長兼管理者は以前役場に勤務していたため、その経験を活かし、役場への各種書類申請の書き方や提出時の注意事項等について利用者や家族へアドバイスをを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、主治医にはいつでも相談できる体制となっている。受診結果は定期的に家族に報告しており、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応しており、取り決めが明確化されている。また、家族や医療機関等との話し合いも行われており、方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議等で利用者への接し方について常に検討しており、利用者の言動を否定せず、希望により入浴時の同性介護を実施する等、一人ひとりの羞恥心や自尊心を傷つけないよう配慮している。また、職員は個人情報の保護について理解しており、個人に関する書類は訪問者の目につかない場所に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、その日の体調や精神状態、希望等に合わせた柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の好みや希望を取り入れている。食事の下ごしらえや味付け、後片付け等は利用者と一緒にっており、昔なつかしい味などは利用者から教わることもある。また、職員は利用者と一緒にテーブルを囲んで食事を摂っており、会話を楽しみながら、さりげなく食べこぼし等へのサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴のほか、希望者には足浴を行っている。また、入浴時は利用者の羞恥心に配慮し、同性介護で対応している。入浴を拒否する利用者に対しては無理強いすることなく、洗髪だけでも促す等の工夫が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意なこと等を把握しており、民謡や裁縫、相撲観戦等の楽しみごとのほか、洗濯物たたみや食事の手伝い、掃除、草取り等の役割を個々に応じて促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望者には毎朝の散歩やラジオ体操を行ってもらったり、天気の良い日はドライブや買い物等に出かけている。また、足湯がある場所に出かけて楽しんでもらう等の支援も行われている。外出時は車を利用する等、利用者の身体状況に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全職員が理解しており、これまで拘束は行われていない。やむを得ず拘束を行わなければならない場合は家族に説明することとなっているが、理由や期間等を記録する仕組みを整えるまでには至っていない。	○	重度化や終末期のケアに対応していることもあり、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え、拘束の理由や期間等を記録する様式を整備してはどうか。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠しておらず、自由に出入りすることができる。外出傾向を察知できるよう見守りを行っており、察知した時には職員が必ず付き添い、気分が落ち着くまで散歩する等の支援が行われている。また、無断外出時には警察署や町内会長等の協力を得ることができる。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練も行っている。また、緊急時の連絡体制や関係機関との連携体制も整備されている。特に災害用ではないが、ホーム向かいの倉庫には食料品を用意している。しかし、寒さをしのげる物品やトイレ等を用意されていない。	○	災害時に備え、寒さをしのげる物品や簡易トイレ等の物品も用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	開設当初は栄養士に献立を作成してもらっていたが、現在は設立当初の献立を参考に、職員が作成している。献立は栄養バランスやカロリーに配慮されたものとなっており、食事や水分の摂取量の把握も行われているが、定期的に栄養士等の専門家からの助言を受ける体制にはなっていない。	○	保健所との連絡を取る等、定期的に専門的な助言をもらえる体制作りを期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成しており、学習会等で全職員が理解を深めるとともに、いつでも確認できる場所に置いている。最新情報が入った時等はマニュアルの見直しを行っている。また、感染症に関する情報はホーム便り等を通じて家族に周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用空間には季節の鉢植えや壁飾りが飾られており、落ち着いた雰囲気となっている。また、ホールには温かい色彩の腰板が貼られているほか、食卓やソファが置かれ、畳のスペースも用意されており、ゆったりと過ごすことができる。職員の立てる物音や室内の明るさも適切であり、快適な空間である。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みを積極的に支援しており、居室には利用者や家族の希望を取り入れた馴染みの品々が持ち込まれている。		

※ は、重点項目。